

第 6 章 国際交流・主宰学会

第1節 学術国際交流

1) 学術国際交流・協力の現状

富山医科薬科大学（以下「本学」という。）は、学術の国際交流の必要性に鑑み開学以来外国の大学、研究機関等との学術国際交流・協力の推進に努力を重ねてきた。現在の本学の国際性を、学術研究の面から概観すれば次のとおりである。

学術交流協定の締結状況（平成7年10月現在）
大学間協定

- 1 瀋陽薬学院（中国）：現瀋陽薬科大学
昭和60年（1985）5月10日
- 2 中日友好医院（中国）
昭和61年（1986）5月7日
- 3 中国中医研究院（中国）
平成3年（1991）11月14日
- 4 カンピーナス大学（ブラジル・覚書）
平成3年（1991）12月4日

学部間協定（医学部・覚書）

- 1 チュラロンコン大学医学部（タイ）
昭和62年（1987）7月16日
- 2 ハサヌデン大学医学部（インドネシア）
昭和63年（1988）7月13日

2) 瀋陽薬科大学との交流

協定以来、隔年に5～6名の研究者が相互に訪問し学術講演、情報交換等を行っている。平成2年（1990）4月には、瀋陽薬学院において協定締結5周年記念式典が挙行され、本学から山崎高應学長はじめ6名が訪問して記念講演、杜松の苗木の植樹等を行った。

平成3年度（1991）には、本学国際交流基金の果実により研究者1名を3か月間招へいた。

平成6年（1994）5月、瀋陽薬学院は瀋陽薬科大学に昇格し、一層の充実が図られている。

3) 中日友好医院との交流

日中友好の象徴である中日友好医院は、昭和56年（1981）12月に着工し、昭和59年（1984）6月に竣工した。同10月には開院式を挙行している。

都心から東北へ約10km、市の外縁部に位置し、周辺は、和平里と呼ばれているが、病院前の通りは、日本から寄付した桜の苗木が植樹されていて桜花東路と呼ばれている。

中西医结合に関する部門を有しており、本学附属病院においても和漢診療部門が開設されたことから、学術交流の気運が高まり、中西結合研究室主任である金恩源教授をはじめとする各位のご尽力により、昭和61年（1986）5月7日学術交流協定を締結した。協定以来、西洋医学と東洋医学の融合に関する共同研究が開始され、平成元年（1989）8月から1年間、金恩源教授を本学客員教授に迎えるなど、研究者の交流や学術情報の交換等が積極的に行われている。平成5年（1993）4月には本学から、佐々木博副学長（現学長）はじめ9名が訪問して「和漢薬研究の最近の進歩」をテーマとしたサテライトシンポジウムを共催した。

平成6年（1994）10月同医院は、開院10周年記念を迎え式典には、本学から佐々木博学長と堀越勇薬剂部長の2名が出席した。その際、学長に名誉顧問、薬剂部長に名誉教授の称号が授与された。

中日友好医院の概要

[China-Japan Friendship Hospital]

所在地：北京市朝陽区和平里桜花東路 100029
病院規模、病棟数：1,500床（そのうち、リハ

ビリテーション300床）

診療科目数：14

外来患者数：1日平均2,500名

敷地面積：97,000㎡

延べ面積：82,992㎡

職員総数：3,800余名

病院構成（面積㎡）

病	棟	35,069
外 来	棟	12,460
放 射 線	棟	4,232
手 術	棟	5,514
一 般 康 復	棟	5,650

外 資 康 復 棟	4,518
給 食 棟	2,950
洗 濯 棟	1,336
電 気 棟	417
ポ イ ラ ー 棟	1,508
臨床医学研究棟	6,357
衛 生 学 校 棟	2,981

外来系統：外来部には中医、西洋医の専門外来が44科設けられ、国内外の著名な専門家および教授が診療に当たっており、現代医学による最新の診断と治療に合わせて中国の伝統医学による診断と治療も受けられるようになっている。

救急系統：院内の救急システムは、主に『救急診断科⇒手術室⇒重症監視病棟（ICU：集中治療部、CCU：冠疾患集中治療部）⇒各科病棟』となっており、救急診断科では、独立した検査、放射線診査を行うことができ、救急手術室、救急室および20の観察病床が設けられている。重症監視病棟には、集中監視病床と隔離監視病床が20床あり、各種の重症患者の救急医療と術後の監視および脳血管障害患者の監視などを引き受けている。センター手術室には、無菌手術室10室と高度浄化手術室10室があり、複雑な心臓、脳、腹膜、整形外科などの手術および臓器移植を行うことができるようになっている。

入院病棟系統：院内には29の西洋医科と15の中医科が設けられ、病棟は中医、西洋医およびリハビリテーションの3つの部門に分かれ、教授、助教授以上の専門家は、300余名であり、現代医学と中国の伝統的な医学理論を結合して運用し、各種疾病に対する治療と研究を広範囲にわたって進めている。

補助診療系統：CT（コンピュータ断層撮影）、ECT（エミッションコンピュータ断層撮影）、PET（陽電子断層撮影）、カラードプラー診断装置および各種の最新試験検査機器を備え、電子ライナック、コンピュータアナログ治療計画システムを装備している放射線治療科と、国内における最大規模の血液浄化センターでは、直接患者の治療を行っている。

リハビリ系統：リハビリテーション、各種疾

患、損傷などに対する回復性治療であり、本院は近代化病院の重要な組織部門として物理療法、針灸按摩気功治療、体能訓練、言語療法を行い、脳血管疾患および脳損傷後遺症などの患者治療に好成績を挙げている。

予防保健系統：7万余の周辺住民の予防と婦幼保健を担当し、病院の地域保健科は、付近の学校、幼稚園、住民家庭に衛生思想、予防接種および婦幼保健の指導を行い、地域住民の予防接種率は100%である。

医学教育系統：本院は、北京医科大学、北京中医薬大学と提携して教育にあたり、本臨床医学院は、博士、修士学位授与病院と認定されている。

衛生学校には、看護管理、薬剤、臨床検査、放射線など10の専門科目を設けており、2年制で、各学年は、50名ずつの3クラスからなり、生徒の数は、300名である。普通教室6室、看護実習室、実験室、視聴覚教室および階段教室を設置している。

科学研究系統：臨床医学研究所には、細胞生物、免疫、生理－病理生理、薬物薬理、生物物理、中西医结合など11研究室と内科、外科など44臨床研究室を設け、200余名の研究者が、中西医结合の臨床研究に従事している。

同医院には、中国全土の各医科大学から選り抜きの俊英が集まっており、中国における医療の中核をなしている。

（この項 中日友好医院 金恩源）

4) 中国中医研究院との交流

昭和50年（1975）10月に富山医科薬科大学が創設された。その後、富山大学から薬学部と和漢薬研究所が順次移管され、昭和54年（1979）4月実質的に現在の態勢ができあがった。開学以来、韓国、台湾、スリランカ等からの留学生を受入れていたが、昭和56年（1981）頃から中国の留学生が増え始めた。とくに、同じ素材を研究対象としている和漢薬研究所は、中国人留学生の受け皿として最適であった。世界人口の5分の1を占める中国との友好関係は強く長く続けるべきであるとの考えから、昭和59年（1984）春、富山県は、遼寧省との間で友好県

省を締結し、同時に富山大学と遼寧大学の間でも学術交流協定が結ばれた。富山医科薬科大学の薬学は歴史が古いので、是非遼寧省内の薬系の大学と学術交流をされてはという県知事や富山大学長のお薦めもあり、瀋陽薬学院（現瀋陽薬科大学）と協議の末、富山県の遼寧省の友好県省締結一周年記念式典が瀋陽で挙行された折、本学の職員数名が同行し、昭和60年（1985）5月10日本学と瀋陽薬学院との学術交流協定が締結された。以来多くの人事交流がなされてきた。

昭和61年（1986）5月7日には、医学部、附属病院が中心となって本学と北京の中日友好医院との間で学術交流協定が締結された。これら瀋陽薬学院および中日友好医院は、近代医薬学の教育、研究、診療が主体であり、和漢薬研究所としては中国医薬学の研究、診療を専門に行っている機関との学術交流を希望していた。幸い和漢薬研究所には、外国人客員教授の免疫機能制御部門が設置されており、毎年中国から教授を招聘している。中国で最大の中医薬研究機関である北京の中国中医研究院からは、すでに2名の客員教授を招聘した実績がある。また、同研究院中薬研究所の数名の教授とは、今までに何度も共同研究を行っている。お互いに協定書の内容について協議を重ねた後、平成3年（1991）11月14日田辺正英副学長を団長とした訪中団を派遣し、本学と中国中医研究院の間で学術交流協定を締結した。学術交流の成果としては、すでに同研究院から中国政府国費留学生として和漢薬研究所に派遣されていた学生が、平成7年（1995）3月、博士（薬学）の学位を取得して帰国したところである。

平成5年（1993）からは、科学研究費補助金（国際学術研究—大学間協力研究）による中国中医研究院との共同研究「仏教医学の調査研究」を3年間の予定で開始しており、平成8年（1996）には、その成果が大いに期待されている。

現在、中国だけでなく、エジプト、中央アジア諸国、インド・東南アジア諸国から、伝統医薬に関する共同研究について多数の要望があ

る。個人レベルの共同研究では、すでに多くの実績があるが、今後は、大学間だけでなく、研究所間、あるいは各研究室間の学術交流協定も必要になってくるものと思われる。そのような場合、研究費等の資金をどうするか、などが問題であろう。

中国中医研究院の概要

[China Academy of Traditional Chinese Medicine (CATCM)]

所在地：北京市東城区北新倉18号 100700

創設：1955年12月19日 当初、衛生部直轄。現在は、国家中医薬管理局直轄の中医薬科学研究センターおよび主要な医療、教育機関である。

構成部門：

西苑医院（第一臨床研究所、老年病研究所を付設）

広安門医院（第二臨床研究所、眼科研究所を付設）

中薬学研究所

鍼灸研究所

骨傷研究所

中医基礎理論研究所

中国医史文献研究所

図書情報研究所（中医古籍出版社を付設）

中医研究生部（大学院）

衛生学校

中医雑誌社

実験製薬工場

眼科医院（建設中）

北京鍼灸骨傷学院（大学）

中医臨床ならびに情報、鍼灸および中薬の3部門は、WHOとの伝統医学統合センターとなっている。

職員数および学生数

総職員：4,300余名（うち研究者、3,000余名）研究者、研究員（教授）；副研究員（副教授）560余名；助理研究員（助手）900余名、その他技術者

大学院生：1990年までに502名が卒業

中医学、中西医結合および薬学の3分野17専門部で大学院生を受入れている。博士指

導教官、22名；修士指導教官、232名

国家から指定を受けた5つの教育研修基地として、1) 中医研究班、2) 中医学史研究班、3) 中医薬文献研究班、4) 西医学習中医班、5) 国際鍼灸学習班がある。

図書館：中国最大の中医薬図書館：約30万冊（そのうちには、中医古籍、孤本・善本6万冊を含む）

附属病院：西苑医院、広安門医院、鍼灸研究所、骨傷研究所および中医基礎理論研究所

ベッド数：1,100、年間外来患者数：100万名（そのうち外国人：5,000名）

研究の概要：本研究院の中心任務は科学的な研究とされている。1990年まで、431項の研究成果を挙げ、そのうちの一部は、国家発明二等奨（1項目：青蒿素についての研究）、国家科学技術進歩奨（5項目）、衛生部および国家中医薬管理局科学技術進歩奨（52項目）を受賞している。1989年以来、13名の専門家が世界文化理事会から表彰を受け、“Albert Einstein”世界科学奨栄誉証書を授与されている。現在、約300項目の研究を行っており、その一部は、WHOの注目と支持を受けている。

出版：中医薬学術期刊（雑誌など）と著作の編集出版も行っている。現在、国内外向き、出版発行されている中医薬専門の雑誌は、8種ある（『中医雑誌』、『中西医结合雑誌』、『中国中薬雑誌』、『中国鍼灸』、『中国骨傷』、『中華医史雑誌』、『中国医学文摘—中医』および『国外医学—中医中薬分冊』）。本院が創設されて以来、約100種類の各種中医著作を主編あるいは共同編集し、孤、善、珍本古籍および中医学術著作を整理出版し、総数約300万冊を発行した。

国際交流：中国中医研究院は、数多くの外国の研究機関および大学との学術交流および共同研究を行っている。毎年、約200人の学者を学術交流および共同研究のために海外へ派遣し、約3,000人の外国人研究者が本研究院を訪問している。1978年以来、国際鍼灸学習班および各種短期間の養成班を開設し、80以上の国家、あるいは地区へ約2,000名の鍼灸、骨傷などの中医薬専門技術員を派遣し、多くの人材を養成し

た。

（この項 難波 恒雄）

日本国富山医科薬科大学と中華人民共和国中日友好医院との友好関係及び学術交流に関する協定書

日本国富山医科薬科大学と中華人民共和国中日友好医院は、日中両国民の友好関係を発展させ、学術交流を推進するため、両機関の友好協力関係を樹立することに合意し、学術交流に関しこの協定を締結することとした。

1. 両機関は、相互理解と尊重し合う精神に基づき、次の学術交流を行う。
 - (1) 科学技術関係の学術情報进行交流し合う。
 - (2) 研究を行うため、教職員及び研究者を交流し合う。
 - (3) その他両機関が協議して同意した事項
2. 両機関は、この協定の実施に当たって、互いに相手機関の法規及び制度を遵守し、十分な協議を経て学術交流を行う。
3. この協定は、必要の生じたときには互いの協議と同意を経て改めることができる。
4. この協定は、1986年に中華人民共和国中日友好医院で調印し、各々が自国語による協定書を交換し合う。
5. この協定は、調印した日から効力を生じ、3年間効力を有するものとし、両機関に異議がなければ引き続き更新される。ただし、いずれかの機関がこの協定を終了しようとするときは、その6月前までに書面をもって通知するものとする。
6. 日中両国の自国語によるこの協定書は、同等の効力を有する。この協定書は各2部作成し、日本国富山医科薬科大学と中華人民共和国中日友好医院とはそれぞれ1部ずつ保存する。

86年5月7日

日本国富山医科薬科大学
学長

佐々木 啓

中華人民共和国中日友好医院
院長

難波 恒雄

中日友好医院与富山医科药科大学
结成友好关系及学术交流的协议书

中日友好医院与富山医科药科大学为了发展中日两国人民的友好关系，推进学术交流，双方同意建立友好关系，并就学术交流缔结本协议。

- 1、双方本着相互理解，相互尊重精神进行如下学术交流。
 - (1) 随时交换学术情报资料。
 - (2) 互派医务人员、研究人员及管理人员进行讲学、研修及课题协作。
 - (3) 开展其它双方协商同意的项目。
- 2、在协作中参加人员必须尊重，遵守对方的法规及规章制度，经充分协商，进行学术交流。
- 3、协议需要更改时，经双方协商同意后，即可修改。
- 4、本协议一九八六年在中华人民共和国中日友好医院签字并相互交换本国语的文本，中日语种文本同等有效。中日友好医院及富山医科药科大学均持中日语种文本各一份。

本协议从签字之日起生效。有效期三年，如果到期双方未提出异议时，本协议继续延长三年。但是，任何一方如要终止本协议，须于本协议终止开始前六个月书面提出。

1986年5月7日

中華人民共和国中日友好医院
院長

難波 恒雄

日本国富山医科薬科大学
学長

佐々木 啓

日本国富山医科薬科大学と中華人民共和国
中国中医研究院との学術交流に関する協定書

日本国富山医科薬科大学と中華人民共和国中国中医研究院は、日中両国民の友好関係を発展させ、学術交流を推進するため、友好的な協議に基づき、両機関の学術交流及び友好関係を樹立することに合意し、この協定を締結することとした。

1. 両機関は、相互理解に基づき、次の学術交流を行う。
 - (1) 科学技術関係の学術情報を交流し合う。
 - (2) 研究及び教育を行うため、教職員及び研究者を派遣し合う。
 - (3) その他両機関が協議して同意した事項
2. 両機関は、この協定の実施に当たって、平等互恵並びに相互理解の精神に基づき、互いに相手機関の法規及び制度を尊重し、十分な協議を経て学術交流を行う。
3. この協定は、必要の生じたときには互いの協議と同意を経て改めることができる。
4. この協定は、1991年に中華人民共和国中国中医研究院で調印し、各々が自国語による協定書を交換し合う。
5. 日中両国の自国語によるこの協定書は、同等の効力を有する。
本協定書は各3部作成し、日本国富山医科薬科大学と中華人民共和国中国中医研究院とはそれぞれ1部保存するほか、両機関の行政上の管理部門には自国語によるものを保存する。
6. この協定書は、調印した日から効力を生じ、3年間効力を有するものとし、両機関に異議がなければ引き続き更新される。ただし、いずれかの機関がこの協定を終了しようとするときは、その6箇月前までに書面をもって通知するものとする。

1991年11月17日

日本国富山医科薬科大学

学 長

山崎高彦



中華人民共和国中国中医研究院

院 長

傅 世 昌



中華人民共和国中国中医研究院與日本國
富山醫科薬科大学關於學術交流協議書

中華人民共和国中国中医研究院與日本國富山醫科薬科大学、為發展日中兩國人民的友好關係、推進學術交流、同意在友好協商的基础上、建立雙方的學術交流及友好關係、為此簽訂本協議書。

1. 双方在相互理解的基础上、進行下列學術交流。
 - (1) 開展科學技術方面的學術交流。
 - (2) 為進行研究及教育、互派教職員及研究人員。
 - (3) 其他經双方協商同意的事項。
2. 双方為實施本協議、在平等互恵相互理解的基礎上、相互尊重對方的法規及制度、經充分協商進行學術交流。
3. 本協議書、必要時經双方商議、在同意的基础上可進行修改。
4. 本協議、於1991年在中華人民共和国中国中医研究院簽字、各互換本國文本的協議書。
5. 日本兩國文本的協議書具有同等效力。
本協議書各製作參部、中華人民共和国中国中医研究院與日本國富山醫科薬科大学各保存壹部、双方上可行政管理部門保存本國文本。
6. 本協議書自簽字的日起生效、三年有效。如双方無異議時可繼續更新。
如任何一方要終止本協議時、應在終止六個月前以書面通知對方。

1991年11月17日

中華人民共和国中国中医研究院

院 長

傅 世 昌

日本國富山醫科薬科大学

学 長

山崎高彦



5) カンピーナス大学との交流

昭和62年（1987）から、ブラジル国における消化器関連医療体系（とくに、食道静脈瘤等の

消化器疾患に係わる診断、治療および予防）を確立すべく、国際協力事業団（JICA）との国際協力事業が展開されている。

チュラロンコン大学との交流

昭和61年（1986）から、前頭部脳瘤対策について共同研究が実施されたが、現在、新しい課題についても検討している。

ハサヌデン大学との交流

昭和63年（1987）から、コレラ菌に関する共同研究が実施されたが、現在、新しい課題についても検討している。

6) 国際学会の開催

定期的に開催される国際シンポジウム

1 和漢薬（中薬）の医学薬学的研究に関する日中シンポジウム

民族の偉大な遺産とも言うべき和漢薬について、本学と中国衛生部との共催で中西医学を統合した臨床研究に関する第1回目の研究交流が、昭和60年9月富山市において開催された。その後、この研究交流は、北京市と交互に計4回開催されている。第5回目は、平成7年10月11日、12日の両日にわたって「中国医学と漢方医学を考える。」を主題に、富山市（県民会館）で開催される。

2 国際伝統医薬シンポジウム・富山

人類の長年の英知の賜物である伝統医薬学を見直し、健康の維持、増進に寄与することを目的に第1回目は、平成4年8月富山市において開催された。その後、毎年富山市において開催され、第4回目は、平成7年10月11日、12日の両日にわたって、富山市（県民会館）で開催される。

3 国際シンポジウム「知覚、記憶、情動の脳内機構：神経科学の最前線」

知覚、認知、記憶、情動の脳内機構を明らかにし、ヒトの精神機能の一層の理解と健忘症、老年痴呆などの精神疾患の原因解明、予防や治療法の開発を目的に、全世界の第一級の研究者が一堂に会して、第1回目は、平成3年10月富山県大山町（大山研修センター）において開催された。第2回目は、前回と同様に全世界の第一級の研究者を招待し、平成7年7月3日から

5 日間にわたって富山県大山町（大山研修センター）において開催された。

今後も定期的に神経科学の最前線の課題について、このような国際シンポジウムの開催を予定している。

7) 国際協力事業の実績

国際協力事業団（JICA）との協力事業

1 カンピーナス大学（ブラジル）消化器病診断・研修センタープロジェクト

ブラジル国における消化器関連医療体系（とくに、食道静脈瘤の消化器疾患に係る診断、治療及び予防等）を確立すべく、昭和61年（1986）にプロジェクト方式による技術協力が計画され、昭和61年から同62年にわたって調査団が派遣された。昭和63年5月には、日本側プロジェクトチームとカンピーナス大学との間で協議書が交換された。専門家の派遣、研修員の受入れ計画、医療機材の検討等の準備期間を経て、平成3年度（1991）から5年計画で本格的に専門家の派遣、研修員の受入れが開始された。その後、常時2名の専門家を交替で派遣するとともに、毎年延べ数名の研修員を受入れている。

2 アスンシオン大学（パラグアイ）との「パラグアイ薬草の化学、薬学的共同研究」

昭和60年度（1985）から開始され、所期の目的を達成して、昭和62年度に終了した。

3 チュラロンコン大学（タイ）との「前頭部脳瘤対策」

昭和61年度（1986）から開始され、所期の目的を達成して、昭和63年度に終了した。

8) 世界保健機構（WHO）との協力事業

WHO伝統医学研究協力センター

世界の伝統医学の情報収集・発信基地として、昭和63年（1988）4月に、本学附属病院中央診療施設和漢診療部が標記センターに指定された。

9) 日本学術振興会との協力事業

1 東南アジア学術交流事業（インドネシアとの拠点大学方式）：平成元年度（1989）開始
交流分野：バイオサイエンス（伝統薬物の資源開発）

拠点大学：名古屋大学・バンドン工科大学

協力大学：本学和漢薬研究所

2 東南アジア学術交流事業（タイとの拠点大学方式）：平成2年度（1990）開始

交流分野：薬学（天然物化学・高分子化学）

拠点大学：東京大学・チェラロンコン大学

協力大学：本学薬学部、和漢薬研究所

国際交流基金による事業

国際交流基金の創設

本学国際交流基金は、本学の国際交流推進のために関係各位から寄せられた資金を基に、平成元年2月に創設されたものである。

基金による事業は、基金から生じた果実をもって行うこととし、平成3年度から次の事業（援助）を開始した。

- 1 研究者の招聘
- 2 私費留学生への奨学援助
- 3 教職員の派遣
- 4 学生の留学（派遣）
- 5 国際シンポジウムの開催
- 6 大学間交流協定による交流
- 7 その他

10) 国際交流会館の設置

昭和62年4月、外国人留学生および外国人研究者に居住の場を提供し、また教育研究の国際交流の促進に資することを目的に開館した。

原則1年の居住を限度に活用しているが、留学生や研究者の増加に伴い、常に満室の状況にある。

建物延面積：1,060m²

共用施設：ロビー、談話室・図書室、研修室、洗濯室

居住施設：单身室18室、夫婦室3室

家族室4室 計25室

（前本学国際交流委員会委員長 小野武年）

海外報告

富山医科薬科大学で実施中の国際協力事業団
(JICA) 医療協力プロジェクトについて
—サンパウロ州立カンピーナス大学医学部消化
器病診断研究センタープロジェクト (JICA 1990～95年) の現況とその周辺事情—

総 括 指 導 佐々木 博
国内委員長 藤 巻 雅 夫
現地チーム・リーダー 山 本 恵 一

富山医科薬科大学では、1986年(昭和61)初より藤巻、佐々木、渡邊教授らによる州立カンピーナス大学(以下カ大)との事前協議、準備調査等ののち、1990年7月に標記プロジェクト方式による国際医療協力を、琉球大学医学部(寄生虫学)等を含めた支援体制の下に発足せしめ、1994年5月以降山本がチーム・リーダーを継承して渡伯し、現在に至っている。ODAプロジェクト協力規定によれば、奇しくも本学創設20周年を刻する1995年7月をもって協力活動の完結を達成することになっているが、目下その協力延長、第2期計画への発展に向けた企案策定が、日伯双方において熱心に進められつつある。

1. 背景・環境

ブラジルの人口1億5,000万人のうち、サルパドル(パイア州)以南、リオ・グランデ・ド・スルまでの大西洋岸と、それに接する内陸部にその大部分が集中している。サンパウロ州は同地域の中心的存在であり、産業、文化の水準は国内でも最高と言われているが、医療面でも同様である。しかしその反面、同国の一大特徴とされる貧富の較差の著しいことでは国内僻地(北部、北東部)とさして変わるところなく(ブラジルの上下所得較差78倍、国際的にも首位を争う。因みに日本のそれは4.5倍。JICA資料)、富裕階層(総人口の約10%に満たないといわれる)に奉仕する私立高級病院を別とすれば、総人口の約30%を占める貧困階層の患

者がまともな診療を望む場合、それに対応可能な公立病院、すなわち州立3大学の附属病院等に集中することになる。これら3大学附属病院(カ大附属病院も含まれる)の医療費は州税等からの給付金のみによって賄われ、患者負担を免ぜられるからである。なお当該施設の医師たちに支払われる州給は、日本におけるそれよりも遙かに低廉であり(日本円換算で15～25万円前後)、つまるところ私立病院の兼業(多くは午後勤務)による副収で彼らの生活を維持している。

カ大消化器病診断研究センターの教育担当者、レジデントらの資質は国内でも最高水準にあるといわれ、私どもと比べてもさほど遜色ありとは思われない。しかし使用機器の整備、訓練教育に関しては、同国最高レベルのカ大といえども協力開始(1990年)時にはわが国のそれらに較べて遙かに劣り、私どもの援助、技術移転の効果は絶大であった。

2. 医療協力5カ年の成果

カ大病院(600床)の管轄する医療圏約500軒四方(日本中部圏の4倍強)、対象人口400万人にとって唯一の高レベル公共医療機関を目指して雲集する患者に対して行っている消化器診療の内訳を最新(1993年度)の集計で示すと、内視鏡諸検査7,100余件(南米大陸諸施設中随一、早期胃癌診断件数(率)は、当初の0%が受診者中20%にまで上昇)、超音波検査5,000余件、X線透視(注腸検査を含む)1,500余件、また同国では手術、および内視鏡等検査前に行う習慣のなかった感染症スクリーニング検査の実施延22,000件余(受検者の約2%にAIDS陽性)にのぼった(図1)。その他手術、生検に伴う病理組織検査は4,000件を超え、日本側指導による臨床研究も消化吸収試験(7,000余件)、ヘリコバクター・ピロリの上部消化管感染病態追究などのほか、病原寄生虫の探索、免疫血清学的診断法の開発(現地抗原による)も進められつつある。

さらに外科治療の内容を過去5年間の手術数のうち、上部消化管の場合をとって示すと、総数903例のうち、食道309例(シャーガス病巨大

図1 各種検査診断件数の推移

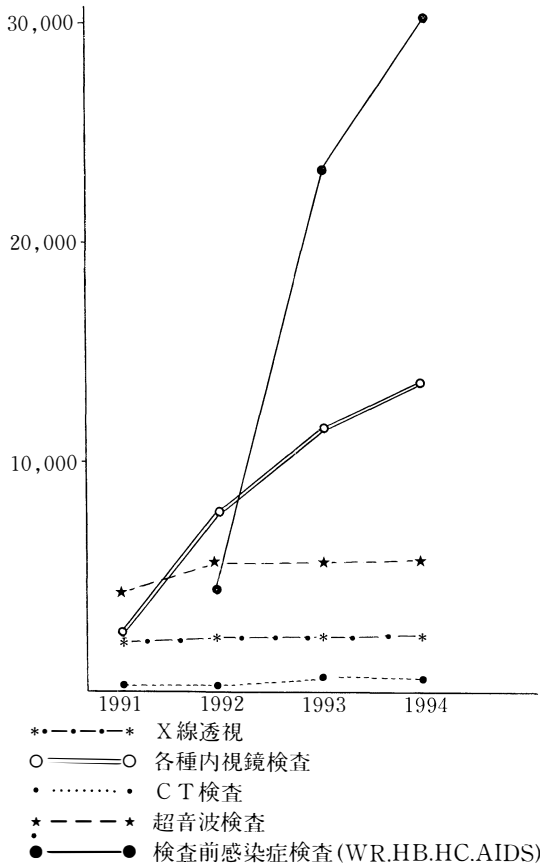


表1 食道・胃手術（開腹）症例内訳

1987.1～1994.12

Esophagus		
Megaesophagus	221例	
Cancer	88例	
Stomach		
Ulcer		
Vagotomy	126	} 195例
Gastric resect	69	
Cancer		
Resection	245	} 341例 (切除率 71.8%)
Others	96	
Others	58例	
		903例
UNICAMP GASTROCENTRO		1994

食道症221例、癌88例)、胃536例(胃潰瘍195例については迷切126例、切除69例、胃癌切除341例)となっている(表1および2)。詳細は略するが、上述の各手術例の術後管理のため50床

表2 巨大食道症 (Chagas etc.) 手術症例

	1987.1～1994.12	
Heller'op	159例	71.9%
Esophagectomy	24例	10.8%
Thal'op (vagotomy + Heller')	16例	7.2%
Cir.de Meraradino'op	17例	7.6%
Esophagogastric anastomosis	5例	2.5%
		221例 100%
UNICAMP GASTROCENTRO 1994		

図2 消化管手術(胃、小腸および大腸各切除再建術)の通常術前後管理様式

A. 開腹手術の場合

入院									
	-2	-1	op	1	2	3	4	5	
検査	前処理					経口	退院	→	
	Polyethylene glycol (経口)								

B. 腹腔鏡手術の場合

	-1	op				1			
前処理 (点滴)						退院	→		

表3 各種内視鏡(腹腔鏡)手術例

1991.1～1994.12

Megaesophagus	
Nissen (症例により Heller'op 併用) 法	152 例
Cholelithiasis, Cholecystitis ほか	
Minilaparotomy 併用法	486 例

に満たない定床を、他の肝、脾、下部消化管グループと分け合い、1例当たり平均5日前後の術後入院期間で回転させる(図2)という、私どもの目からみれば離れ業を行っている。それを補う手段として、供与機器による腹腔鏡手術が著増し、それら技術の向上には瞠目すべき成果が上っている(表3)。しかも一方で全肝移植も20例近くを実施するなど、外科スタッフの意欲には極めて旺盛なものが見られる。

3. ブラジル医学(高等)教育援助の意義

以上述べた如くに、カンピーナス大学におけるわが国ODAプロジェクトが、その管轄するサンパウロ州第5行政区の低所得者層に対

し、消化器病診療を中心とする医療福祉の向上に直接貢献していることは疑いないところである。それと並んで重要視さるべきことは、本プロジェクトの諸成果が、単にサイト内に限局化されることなく、そこでの卒前、卒後教育を通じ、さらにまた同国内、外での研究会、学会等における各種学術発表、教科書、教育用ビデオ制作などを通じてなされるブラジル臨床消化器病学のレベル向上への貢献である。

これについては、カンピーナス大学が医学高等教育機関としてはサンパウロ大学と肩を並べる優良校の評価を受けており、これより輩出する若手医師達が近未来におけるブラジル医学界の指導層を構成することは疑いないところであって、彼らに対する技術移転の効果が日伯医学協力にもたらす好影響には計り知れないものがあるといっても過言ではない。

私どものプロジェクトサイトのサンパウロ州は、既述の如く医療分野においてオーストラリア、南アフリカ共和国と並ぶ南半球の3大先進地域の一つであり、特にブラジルは経済の回復と相まって南米の指導的国家たらんことを目指している。この1995年に日伯修好100年を迎えることの意義も大きく、本学の国際的貢献の一端をその創立20周年に当たって顕示することのできる喜びを同学諸賢とともにしたい。

なお本プロジェクトへの派遣に協力された医師、技師ほか64名中、本学関係者38氏の芳名(敬称、職位略)を記し、深謝の意を表する。

愛場信康 青山圭一 新井英樹 折原正周
 勝山新弥 唐木芳昭 倉茂洋一 黒木嘉人
 小泉富美朝 康山俊学 斉藤清二 斉藤壽一
 榊原年宏 坂本 隆 佐々木 博 清水哲朗
 清水幸裕 霜田光義 鈴木修一郎 高原照美
 竹森 繁 田沢賢次 田中三千雄 月城孝志
 土田敏博 南部修二 根本美洲 樋口清博
 藤井 惇 藤巻雅夫 舟木 淳 宮林千春
 山崎高広 山下芳朗 山田 明 若木邦彦
 若林泰之 渡邊明治 (五十音順)

(山本恵一)

第2節 主宰学会

昭和60年度から平成6年度までに開催された本学関係者主宰の学会（「地方会」以上）を年次別に
 列挙し、学会活動の一端を紹介する。

開催年月日	名 称	会 場	世 話 人
昭和60. 7. 14	第7回北陸医史学同好会	富山県民館	松田 健 史
昭和60. 8. 3～ 8. 4	第2回富山医科薬科大学整形外科立山セミナー	立山国際ホテル	辻 陽 雄
昭和60. 8. 30～ 8. 31	第21回中部日本小児科学会	富山県農協会館	岡田 敏 夫
昭和60. 9. 1～ 9. 2	和漢薬（中薬）の医学薬学的研究に関する日中 シンポジウム	富山県民会館	難波 恒 雄
昭和60. 10. 16～10. 18	第44回日本公衆衛生学会総会	富山県民会館	渡 辺 正 男
昭和60. 10. 22～10. 24	アーユルヴェーダ研究会第7回研究総会	立山国際ホテル	難波 恒 雄
昭和60. 10. 26	日本口腔科学会中部地方会	富山医科薬科大学	古 田 勲
昭和60. 11. 15～11. 17	第5回富山カンファレンス	立山国際ホテル	荻 田 善 一
昭和60. 12. 14	第6回北陸先天異常研究会	富山県民会館	松田 健 史
昭和61. 3. 9	第214回日本小児科学会北陸地方会	富山医科薬科大学	岡田 敏 夫
昭和61. 4. 23～ 4. 24	第51回日本温泉気候物理医学会	宇奈月福祉センター	柿下 正 雄
昭和61. 6. 14	第131回日本内科学会北陸地方会	富山医科薬科大学	篠山 重 威
昭和61. 7. 5	日本核医学会第14回中部地方会	富山県民会館	柿下 正 雄
昭和61. 7. 6	日本医学放射線学会第91回中部地方会	富山県民会館	柿下 正 雄
昭和61. 7. 19	第8回中部日本神経精神薬理学研究会	富山医科薬科大学	武田 龍 司
昭和61. 8. 2～ 8. 3	第3回富山医科薬科大学整形外科立山セミナー	立山国際ホテル	辻 陽 雄
昭和61. 8. 31～ 9. 2	第6回富山カンファレンス	立山国際ホテル	荻 田 善 一
昭和61. 9. 27～ 9. 28	第37回日本皮膚科学会中部支部総会学術大会	富山県民会館	諸 橋 正 昭
昭和61. 10. 20～10. 21	第18回薬物代謝と薬効・毒性シンポジウム	富山県民会館	小 泉 保
昭和61. 10. 22	日本薬物動態学会第1回年会	富山県民会館	小 泉 保
昭和61. 10. 30～10. 31	第67回中部日本整形外科・災害外科学会	富山県民会館ほか	辻 陽 雄
昭和61. 12. 14	第217回日本小児科学会北陸地方会	富山医科薬科大学	岡田 敏 夫
昭和62. 2. 14	第57回日本循環器学会北陸地方会	富山医科薬科大学	篠山 重 威
昭和62. 2. 15	第335回日本泌尿器科学会北陸地方会	金沢大学	片 山 喬
昭和62. 2. 22	第322回日本皮膚科学会北陸地方会	金沢大学記念館	諸 橋 正 昭
昭和62. 3. 8	第26回日本臨床病理学会東海・北陸部会総会	富山医科薬科大学	桜 川 信 男
昭和62. 3. 28	昭和62年度北陸体育学会	富山医科薬科大学	金子 基 之
昭和62. 4. 24～ 4. 25	第4回日本顎顔面補綴学会総会	名鉄トヤマホテル	古 田 勲
昭和62. 5. 16	日本生化学会北陸支部第5回大会	富山医科薬科大学	小 橋 恭 一
昭和62. 6. 13	第336回日本泌尿器科学会北陸地方会	福井医科大学	片 山 喬
昭和62. 6. 14	日本産婦人科学会北陸連合地方部会	名鉄トヤマホテル	泉 陸 一
昭和62. 6. 28	第49回日本消化内視鏡学会・北陸地方会	富山医科薬科大学	田中三千雄
昭和62. 7. 25～ 7. 26	民衆思想研究会	高志会館	小 澤 浩
昭和62. 8. 1～ 8. 2	第4回富山医科薬科大学整形外科立山セミナー	立山国際ホテル	辻 陽 雄
昭和62. 8. 22	第23回中部外科学会総会	高志会館	山 本 恵 一
昭和62. 8. 28～ 8. 29	第4回和漢医学会	富山県民会館	大 浦 彦 吉
昭和62. 9. 6	第136回日本内科学会北陸地方会	富山医科薬科大学	佐々木 博

開催年月日	名 称	会 場	世 話 人
昭和62. 9. 6	第324回日本皮膚科学会北陸地方会	富山県民会館	諸 橋 正 昭
昭和62. 9. 6	第337回日本泌尿器科学会北陸地方会	富山県民会館	片 山 喬
昭和62. 9. 6	第220回日本小児科学会北陸地方会	富山医科薬科大学	岡 田 敏 夫
昭和62. 9. 29～10. 1	第22回日本アルコール医学会総会	富山県民会館	中 西 顕 央
昭和62. 10. 6	第 6 回胸腺研究会	石川県教育会館	山 本 恵 一
昭和62. 11. 6	第 9 回日本学術会議毒科学研連シンポジウム	富山県民会館	中 西 顕 央
昭和62. 11. 29	第23回日本皮膚科学会北信越合同地方会	富山県民会館	諸 橋 正 昭
昭和62. 12. 6	第42回日本麻酔学会北陸地方会	富山医科薬科大学	伊 藤 祐 輔
昭和62. 12. 20	第325回日本皮膚科学会北陸地方会	高志会館	諸 橋 正 昭
昭和62. 12. 20	第338回日本泌尿器科学会北陸地方会	ホリディ・イン金沢	片 山 喬
昭和63. 2. 13	第339回日本泌尿器科学会北陸地方会	金沢医科大学	片 山 喬
昭和63. 2. 20	第209回北陸外科学会	富山医科薬科大学	山 本 恵 一
昭和63. 3. 19	第 4 回耳鼻咽喉科情報処理研究会	富山県民会館	水 越 鉄 理
昭和63. 6. 3～ 6. 4	第12回北日本脳神経外科連合会	富山県教育文化会館	高 久 晃
昭和63. 6. 18	第24回日本脳神経外科学会中部地方会	高志会館	高 久 晃
昭和63. 7. 2	民族薬物とその資源に関するシンポジウム	富山医科薬科大学	難 波 恒 雄
昭和63. 7. 2	第340回日本泌尿器科学会北陸地方会	富山医科薬科大学	片 山 喬
昭和63. 8. 6～ 8. 7	第 5 回富山医科薬科大学整形外科立山セミナー	立山国際ホテル	辻 陽 雄
昭和63. 9. 4	第341回日本泌尿器科学会北陸地方会	福井医科大学	片 山 喬
昭和63. 10. 11	第 1 回上皮輸送研究会	京都大学会館	竹 口 紀 晃
昭和63. 10. 23	第 2 回日本病院薬剤師会北信越ブロック学術大会	高志会館	堀 越 勇
昭和63. 11. 4～11. 5	第35回日本結核病学会 第24回日本胸部疾患学会 } 合同北陸地方会 第 9 回日本気管支学会 }	高志会館	山 本 恵 一
昭和63. 11. 26	北陸先天異常研究会第 9 回学術集会	富山医科薬科大学	渡 辺 正 男
昭和63. 12. 2	第28回子宮癌研究会	富山県民会館	泉 陸 一
昭和63. 12. 11	第225回日本小児科学会北陸地方会	富山医科薬科大学	岡 田 敏 夫
昭和63. 12. 18	第342回日本泌尿器科学会北陸地方会	名鉄トヤマホテル	片 山 喬
平成元. 5. 13	第 7 回日本血液学会北陸地方会	ホテルニュー金沢	佐々木 博
平成元. 5. 19	国際食道疾患会議日本部会第 5 回総会	高志会館	藤 巻 雅 夫
平成元. 5. 29～ 6. 2	第 6 回国際アイソザイム会議	富山県民会館	荻 田 善 一
平成元. 6. 1～ 6. 2	第39回電気泳動学会春季大会	富山県民会館	荻 田 善 一
平成元. 7. 1	第23回日本肺癌学会北陸地方会	富山県医師会館	矢 野 三 郎
平成元. 8. 5～ 8. 6	第 6 回富山医科薬科大学整形外科立山セミナー	富山厚生年金休暇センター	辻 陽 雄
平成元. 10. 14～10. 15	第 3 回和漢薬（中薬）の医学薬学的研究に関する日中シンポジウム	富山県民会館	灘 波 恒 雄 渡 邊 裕 司
平成元. 10. 20～10. 21	第32回日本感染症学会中日本地方会	名鉄トヤマホテル	矢 野 三 郎
平成元. 10. 21～10. 22	日本放射線技術学会第24回中部部会	高岡文化ホール	倉 西 誠
平成元. 11. 4～11. 5	第39回日本泌尿器科学会中部総会	富山県民会館	片 山 喬
平成元. 11. 9～11. 10	第26回日本細菌学会中部支部総会	山田温泉玄猿楼	小 西 健 一
平成元. 11. 18	第 7 回麻酔・集中治療コンピュータ研究会	富山県民会館	伊 藤 祐 輔
平成元. 11. 25	第33回手術手技研究会	富山県民会館	藤 巻 雅 夫
平成元. 12. 2	第 1 回小児科腎疾患漢方研究会	高志会館	岡 田 敏 夫

開催年月日	名 称	会 場	世 話 人
平成元.12.10 平成 2. 2. 9～ 2.10	第229回日本小児科学会北陸地方会 日本胸部外科学会関西地方会第17回学術セミナー	富山医科薬科大学 石川教育会館	岡田 敏 夫 山 本 恵 一
平成 2. 2.25 平成 2. 6. 2 平成 2. 6.15～ 6.16 平成 2. 6.23 平成 2. 6.24 平成 2. 7. 7 平成 2. 7. 8 平成 2. 7.17 平成 2. 8. 4～ 8. 5	第336回日本皮膚科学会北陸地方会 第13回北陸乳癌懇話会 第33回日本胸部外科学会関西地方会学術セミナー 第147回日本内科学会北陸地方会 第337回日本皮膚科学会北陸地方会 日本医学放射線学会中部地方会 日本核医学会中部地方会 第 1 回富山「脳と精神機能」研究会 第 7 回富山医科薬科大学整形外科立山セミナー	金沢大学記念館 富山県医師会館 高志会館 富山医科薬科大学 金沢大学記念館 高志会館 高志会館 名鉄トヤマホテル 富山厚生年金休暇センター	諸 橋 正 昭 唐 木 芳 昭 山 本 恵 一 渡 辺 明 治 諸 橋 正 昭 柿 下 正 雄 柿 下 正 雄 小 野 武 年 辻 陽 雄
平成 2. 8.25～ 8.26 平成 2. 8.31～ 9. 2 平成 2. 9. 2 平成 2.11. 9～11.11 平成 2.11.17 平成 2.11.24 平成 2.12. 9 平成 2.12.16 平成 3. 1.30 平成 3. 2.16 平成 3. 2.23 平成 3. 3. 9～ 3.10 平成 3. 5.17 平成 3. 5.25 平成 3. 6. 9 平成 3. 6.23 平成 3. 6.23 平成 3. 6.29～ 6.30 平成 3. 7.13 平成 3. 7.23 平成 3. 8. 3～ 8. 4	第 7 回和漢医薬学会大会 第 5 回国際生態学芦原サテライトセミナー 第232回日本小児科学会北陸地方会 第18回日本放射線技術学会秋季学術大会 第32回日本産業・労働・交通眼科科学会 第 2 回北陸病理集談会 第48回日本麻酔学会北陸地方会 第340回日本皮膚科学会北陸地方会 第 2 回富山「脳と精神機能」研究会 第218回北陸外科学会 第 3 回富山県母性衛生学会総会・学術総会 第 3 回日本消化器内視鏡学会北陸セミナー 第 9 回絨毛性疾患研究会 日本生化学会北陸シンポジウム 第57回日本消化器内視鏡学会北陸地方会 第72回日本消化器病学会北陸地方会 第19回日本産科婦人科学会北陸連合地方部会 第 9 回北陸病害動物研究会 第39回日本耳鼻咽喉科学会中部連合会 第 3 回富山「脳と精神機能」研究会 第 8 回富山医科薬科大学整形外科立山セミナー	富山県民会館 パストラル清雲閣 富山医科薬科大学 富山県民会館 富山電気ビル 富山医科薬科大学 富山医科薬科大学 高志会館 名鉄トヤマホテル 富山医科薬科大学 高志会館 金沢市文化ホール 名鉄トヤマホテル ボルファート富山 富山医科薬科大学 富山医科薬科大学 名鉄トヤマホテル 立山少年自然の家 高志会館 名鉄トヤマホテル 富山厚生年金休暇センター	矢 野 三 郎 鏡 森 定 信 岡 田 敏 夫 倉 西 誠 窪 田 靖 夫 小泉富美朝 伊 藤 祐 輔 諸 橋 正 昭 小 野 武 年 山 本 恵 一 鏡 森 定 信 田中三千雄 泉 陸 一 藤 岡 基 二 田中三千雄 渡 辺 明 治 泉 陸 一 上 村 清 水 越 鉄 理 小 野 武 年 辻 陽 雄
平成 3. 9.12～ 9.14 平成 3. 9.19 平成 3. 9.20～ 9.21 平成 3. 9.21 平成 3. 9.28～ 9.29 平成 3.10. 5 平成 3.10. 6～19.11 平成 3.11. 7	第23回日本臨床電子顕微鏡学会 第 5 回小児CAPD研究会 第13回小児腎不全研究会 第 1 回日本ME学会北陸地方会 有機合成北陸セミナー 国際シンポジウム「認知・記憶の脳内機構： ニューロンから行動まで」開催記念公開学術講演会 国際シンポジウム「認知・記憶の脳内機構： ニューロンから行動まで」 第 4 回肝画像診断研究会西部会	富山県民会館 名鉄トヤマホテル 入善コスモホール 富山医科薬科大学 富山県青年の家 富山県民会館 大山研修センター 富山県民会館	佐々木 博 稲 場 進 岡 田 敏 夫 篠 山 重 威 小 泉 徹 小 野 武 年 小 野 武 年 佐々木 博

開催年月日	名 称	会 場	世 話 人
平成 3.11. 8～11. 9	第26回日本肝臓学会西部会	富山県民会館	佐々木 博
平成 3.12. 8	第237回日本小児科学会北陸地方会	富山医科薬科大学	岡田敏夫
平成 3.12.14	1991年日本不妊学会北陸支部学術総会	金沢シティモンドホテル	片山 喬
平成 4. 1.14	第4回富山「脳と精神機能」研究会	名鉄トヤマホテル	小野武年
平成 4. 2. 8	第9回日本ストーマリハビリテーション学会	富山県民会館	田沢賢次
平成 4. 2.22	第5回老年脳神経外科研究会	富山県農協会館	高久 晃
平成 4. 3.14	第2回日本ME学会北陸地方会	富山医科薬科大学	藤田正俊
平成 4. 5.15～ 5.16	第39回マトリックス研究会	立山国際ホテル	中川秀夫
平成 4. 5.23	1992年日本不妊学会北陸支部学術総会	金沢シティモンドホテル	片山 喬
平成 4. 6.26～ 6.27	第40回日本結核病学会 第29回日本胸部疾患学会 第13回日本気管支学会	高志会館	北川正信
平成 4. 7. 2～ 7. 3	第15回日本顔面神経研究会		
平成 4. 7.21	第5回富山「脳と神経機能」研究会		
平成 4. 8. 1～ 8. 2	第9回富山医科薬科大学整形外科立山セミナー	富山県農協会館 名鉄トヤマホテル 富山厚生年金休暇センター	水越鉄理 小野武年 辻 陽雄
平成 4. 8.22～ 8.24	国際伝統医薬シンポジウム・富山'92	富山県民会館ほか	難波恒雄
平成 4. 8.26～ 8.27	第11回北日本脳神経外科夏期セミナー	立山国際ホテル	高久 晃
平成 4.10. 4	第2回北陸救急・集中治療医学研究会	富山医科薬科大学	伊藤祐輔
平成 4.10.14～10.15	第3回和漢薬の医学薬学的研究に関する日中シンポジウム	富山県民会館	渡邊裕司
平成 4.10.15～10.16	日本薬学会シンポジウム中枢高次機能障害と薬物療法	高志会館	渡邊裕司
平成 4.11.21	日本薬学会北陸支部第87例会	富山医科薬科大学	上野雅晴
平成 4.11.21	第13回北陸先天異常研究会	富山医科薬科大学	岡田敏夫
平成 4.12.13	第241回日本小児科学会北陸地方会	富山医科薬科大学	岡田敏夫
平成 5. 1.26	第6回富山「脳と精神機能」研究会	名鉄トヤマホテル	小野武年
平成 5. 3. 6	第3回日本ME学会北陸地方会	富山医科薬科大学	藤田正俊
平成 5. 5.29	1993年日本不妊学会北陸支部学術総会	金沢シティモンドホテル	片山 喬
平成 5. 6. 4～ 6. 5	第22回日本脊椎外科学会	富山県民会館	辻 陽雄
平成 5. 6.17	第5回花粉症研究会	富山県民会館	寺西秀豊
平成 5. 6.19	日本インポテンズ学会中部地方会	大阪シェーリング講堂	片山 喬
平成 5. 6.19	第18回日本口腔外科学会中部地方会	富山県民会館	古田 勲
平成 5. 6.27	第159回日本内科学会北陸地方会	富山医科薬科大学	小林 正
平成 5. 6.29	第7回富山「脳と精神機能」研究会	名鉄トヤマホテル	小野武年
平成 5. 7. 3	病院病理医協会第31回中部標本交展会	高志会館	北川正信
平成 5. 7. 3	第39回日本脳神経外科学会中部地方会	高志会館	高久 晃
平成 5. 8. 7～ 8. 8	第10回富山医科薬科大学整形外科立山セミナー	富山厚生年金休暇センター	辻 陽雄
平成 5. 9.11	第5回中部リウマチ学会総会	高志会館	小泉富美朝
平成 5.10. 1～10. 2	第2回日本グニ学会大会	富山医科薬科大学	上村 清
平成 5.10. 2	国際伝統医薬シンポジウム・富山'93	富山県民会館	難波恒雄
平成 5.10. 5～10. 7	第7回国際中草药シンポジウム	北京（北京飯店）	難波恒雄
平成 5.10.30～10.31	第20回ネパール研究学会北陸大会	富山県民会館	難波恒雄

開催年月日	名 称	会 場	世 話 人
平成 5.11. 6～11. 7	第43回日本結核病学会 第32回日本胸部疾患学会 第17回日本気管支学会	富山県民会館	小 林 正
平成 5.11. 6～11. 7	第 3 回日本胸部疾患学会北陸地区教育セミナー	富山県民会館	小 林 正
平成 5.11.14	第29回北信越合同皮膚科学会	富山県民会館	諸 橋 正 昭
平成 5.12. 9～12.11	第21回ヘテロ原子化学討論会	富山大学黒田講堂	小 泉 徹
平成 5.12.12	第245回日本小児科学会北陸地方会	富山医科薬科大学	岡 田 敏 夫
平成 6. 1.25	第 8 回富山「脳と精神機能」研究会	名鉄トヤマホテル	小 野 武 年
平成 6. 2. 5	第227回北陸外科学会北陸地方会	富山医科薬科大学	山 本 恵 一
平成 6. 3. 1～ 3. 3	平成 5 年度生理学研究so研究会	生理学研究所	竹 口 紀 晃
平成 6. 6. 3	第16回癌局所療法研究会	宇奈月国際会館	藤 巻 雅 夫
平成 6. 6.25	1994年日本不妊学会北陸支部学術総会	金沢シティモンドホテル	片 山 喬
平成 6. 6.26	第356回日本皮膚科学会北陸地方会	金沢都ホテル	諸 橋 正 昭
平成 6. 7.21～ 7.22	第44回日本消化器外科学会総会	富山県民会館ほか	藤 巻 雅 夫
平成 6. 7.26	第 9 回富山「脳と精神機能」研究会	名鉄トヤマホテル	小 野 武 年
平成 6. 7.30～ 7.31	第11回富山医科薬科大学整形外科立山セミナー	富山厚生年金休暇センター	辻 陽 雄
平成 6. 8.19～ 8.20	第21回日本電頭皮膚生物学会	富山県民会館	諸 橋 正 昭
平成 6. 9. 2～ 9. 3	上皮輸送研究会	とやま古洞の森	竹 口 紀 晃
平成 6. 9. 4	第48回北陸医学会総会	富山医科薬科大学ほか	佐々木 博
平成 6. 9. 4	第164回日本内科学会北陸地方会	富山県医師会館	井 上 博
平成 6. 9. 4	第248回日本小児科学会北陸地方会	富山医科薬科大学	岡 田 敏 夫
平成 6. 9.11	第357回日本皮膚科学会北陸地方会	富山安田生命ビル	諸 橋 正 昭
平成 6. 9.24	第 6 回分子糖尿病シンポジウム	タワートリプルワン	小 林 正
平成 6. 9.25～ 9.28	第 6 回国際環境複合影響会議	富山県民会館	加 須 屋 實
平成 6.10. 1～10. 2	第50回日本寄生虫学会西日本支部大会	富山医科薬科大学	上 村 清
平成 6.10. 1～10. 2	第49回日本衛生動物学会西日本支部大会	富山医科薬科大学	上 村 清
平成 6.10.22	第 3 回国際伝統医薬シンポジウム・富山(1994)	富山県民会館	難 波 恒 雄
平成 6.10.26～10.28	第38回日本不妊学会総会	富山県民会館ほか	片 山 喬
平成 6.11. 3	第 5 回日本病院薬剤師会北信越ブロック学術大会	富山市民プラザ	中 川 輝 昭
平成 6.11.26～11.27	第19回日本接触皮膚炎学会学術大会	富山県民会館	諸 橋 正 昭
平成 6.11.26～11.27	第 1 回三次元微小解剖を考える会	呉羽ハイツ	大 谷 修
平成 6.12.10	第16回癌の生存時間研究会	大宮ソニックシティ	折 笠 秀 樹
平成 6.12.18	第358回日本皮膚科学会北陸地方会	高志会館	諸 橋 正 昭
平成 7. 2.12	第24回職業性アレルギー研究会	富山県国際文化センター	鏡 森 定 信
平成 7. 2.17～ 2.18	第10回バイオ統計学研究会	富山医科薬科大学	折 笠 秀 樹
平成 7. 2.21	第10回富山「脳と精神機能」研究会	名鉄トヤマホテル	小 野 武 年
平成 7. 2.23～ 2.24	平成 6 年度生理学研究so研究会	生理学研究所	竹 口 紀 晃
平成 7. 3. 5	第56回日本麻酔学会北陸地方会	富山医科薬科大学	伊 藤 祐 輔
平成 7. 3.18	第 4 回医用器材研究会	タワートリプルワン	佐藤根敏彦